

令和七年 第二回例会

観世流

緑泉会

令和七年

四月二十日(日)

午後一時開演(正午開場)

矢来能楽堂



令和七年 第二回例会 番組

舞囃子 雲林院 墨 敬子

大鼓 亀井 洋佑 太鼓 澤田 晃良
小鼓 清水 和音 笛 平野 史夏

地謡 筒井 陽子
桑田 貴志
津村 禮次郎
新井 麻衣子

狂言 鎌腹 太郎 山本 則重

妻 山本 則秀
仲蔵人 若松 隆

【休憩二十分】

氷室 桑田 貴志

石井 寛人

仕舞 笠之段 永島 充

地謡 佐久間 二郎
中所 宜夫

鞍馬天狗 津村 禮次郎

筒井 陽子

百萬ノ子坂 賀子

能 百萬

狂女百萬坂 真太郎 里人 村瀬 慧
里人 福王 和幸 大鼓 佃 良太郎 太鼓 桜井 均
法樂之舞 里人 矢野 昌平 小鼓 幸 正昭 笛 藤田 次郎
門前ノ者 山本 凜太郎

後見 新井 麻衣子

石井 寛人 永島 充

奥川 恒治

地謡 中森 健之介 中所 宜夫
桑田 貴志 中森 貫太

佐久間 二郎 鈴木 啓吾

付祝言

【終演予定 午後三時四十分】

許可のない録音、撮影は一切禁止です。携帯電話は電源からお切り下さい。演能や他のお客様の迷惑となる行為はご遠慮願います。場合によっては退場頂く事もございますのでご了承下さい。

舞囃子 Maibayashi ... 雲林院 Unrinin 墨 敬子
狂言 Kyogen 鎌腹 Kamabara 山本 則重
能 Noh 百萬 法樂之舞 Hyakuman hourakunomai 坂 真太郎

仕舞

氷室 (ひむろ)
丹波の氷室山を訪れた朝廷の臣下に、山陰の室に氷を蓄えておく子細を語った氷室守が、氷室明神の姿を現わして、氷を都へ運ぶ様子を舞う。

笠之段 (かさのたん)
能「蘆刈」の二節。蘆売りの男が仁徳天皇の御宇のめでたさを語った後、御津の浜の有様を面白おかしく舞う。

古歌に詠まれた網舟の賑い、春の海のごやかさ、心も浮き立ち笠を手に舞えば、女たちも囃し立てて面白さはこの上もない。

鞍馬天狗 (くらまてんぐ)
寺で平家の稚児たちに囲まれて逼塞している牛若丸に、鞍馬山の天狗は兵法を授けて、将来平家を西海に滅ぼすと予言する。帰ろうとする天狗だが牛若に引き止められ、名残りを惜しみつつ、大木の梢を飛び翔つて姿を消す。

狂言

鎌腹 (かまばら)
久しぶりに帰宅した男に、山仕事をさせようとした女は、山に行こうとしない男に腹を立て、山仕事の鎌を振り回して男を責め立てる。仲裁に入る人がいて、男は仕方なく山に行くこととなり、女は仲裁人を伴い帰ってゆく。

鎌を手に残された男は、女へのあてつけに鎌で腹を切つて死のうとするのだが、やはりこの男の情けなさ……

舞囃子

雲林院 (うんりんいん)
伊勢物語の愛読者・芦屋公光の前に、在原業平の霊が現れて、伊勢物語の秘事を明らかにしつつ舞を舞う。

弘徽殿への通いから始まり、伊勢物語の名所巡りが実は内裏の中の出来事だと明かす曲舞を舞い、続いて貴人の優雅さに加えて歌舞の菩薩としての業平の神性を表す太鼓入りの序之舞を舞い、最後は文芸の栄えを松の葉に例えて、夜明けと共に姿を消す。

能

百萬 法楽之舞 (ひやくまん ほうらくのまい)
男(ワキ・ワキツレ)と子供(子方)が嵯峨の清凉寺に向かっている。この子は迷い子となっていたのを男が保護しているらしい。嵯峨で大念仏があると言うので、仏力に頼ろうと出かけて行く。門前の人(間狂言)に訊ねると百萬と言う狂女が踊り念仏を面白く舞うと言うので、これを見ることにする。彼のぎこちない踊り念仏を咎めるように、狂女百萬(シテ)が現れ、音頭を取って舞い始める。最初は車に乗って囃し立てる車念仏、やがて親子の絆に繋がれて成仏出来ない憂さを払うように車を降りて舞う様を見れば、髪は乱れ、着物の裾を結び上げたあられも無い姿、でもこれも別れた我が子に会いたい一心のことで、釈迦如来に祈りを捧げる。

その時子供が突然男に向い、狂女を故郷の母だと言う。確かめて欲しいと請われ、男は女と言葉を交し、狂女は自らの境涯を語り込んだ法楽の舞を舞う。「こうして私が舞うのは我が子に会うため。翻す袖は会うという名前を持つ鸚鵡の袖。この百萬は我が子の無事を祈るのです」と舞い始める。

小書「法楽之舞」では、この部分に狂女の心理を表すような、囃子による舞の演奏が入る。それを受けて百萬の身の上話の曲舞が始まる。

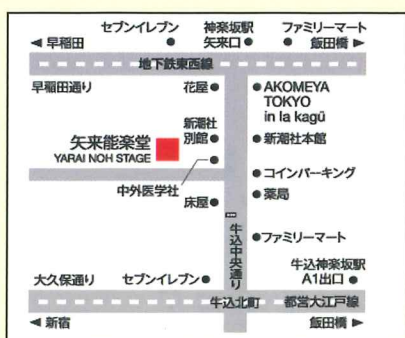
辛い暮しだった故郷から救い出してくれるかと思えた男も直ぐ亡くなってしまう。奈良の都からこの嵯峨野の寺近くで見失ってしまった。奈良の都からこの嵯峨野の寺まで探しながらやって来て、その賑いといひ三国伝来の仏像といひ、その有難さに縋るのだけれど、仏でさえ御母の摩耶夫人との別れを悲しんだのに、何故我が子はこの母を悲しまぬのかと、子を恨んだり我が身を悲しんだり、心が乱れてならない。それにしても我が子が恋しいと、自分を取り囲む群集の中に我が子を探すが見つからない。南無阿弥陀仏とひたすら繰り返すが、ついに泣き伏してしまふ。

男はついに見かねて、連れの子供を引き合わせる。興奮状態の百萬は何故早く名乗らないのかと怒るが、思い直して生き別れた子供に再会する稀有な僥倖を喜び、仏縁に感謝して都に帰る。

2025.
4.20 (日) PM1:00 (正午開場)
矢来能楽堂

〒162-0805 新宿区矢来町 60
☎ 03-3268-7311

地下鉄東西線神楽坂駅下車 矢来口より徒歩 2 分
都営大江戸線牛込神楽坂駅 A1 出口より徒歩 5 分
駐車場はございません。
近隣のコイン駐車場をご利用下さい。



入場料 (全自由席)

会員券 (年4回) 一般 20,000円 学生 10,000円
1回券 (当日券) 一般 6,000円 学生 3,000円

申込先: 各出演能楽師または緑泉会まで

墨 敬子 TEL&FAX 045-544-6787
坂 真太郎 TEL 03-3873-5404
FAX 03-3873-5635

令和7年 第3回例会 9月28日(日)

能……三 輪 Miwa …………… 中所 宜夫
能……藤 戸 Fujito …………… 能 鈴木 啓吾